

Asia Leadership Fellow Program

2016 PROGRAM REPORT

Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?

Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?

Published by

International House of Japan and Japan Foundation

Copyright © 2017

International House of Japan

5-11-16 Roppongi, Minato-ku,

Tokyo 106-0032, Japan

Telephone: +81-3-3470-3211

Fax: +81-3-3470-3170

Email: alfp_info@i-house.or.jp

URL: alfpnetwork.net/en/

Contents

ALFP 2016 Fellows (フェロー・プロフィール) -----	4
ALFP 2016 Schedule (スケジュール) -----	7
ALFP 2016 Program Overview (プログラム概要) -----	8

藤岡 恵美子（日本）

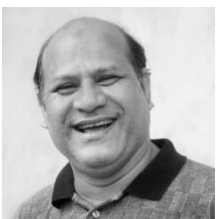
NPO 法人ふくしま地球市民発伝所 事務局長



福島原発事故の教訓を市民の視点で世界に伝えるというミッションのもと、福島市を拠点に活動する NPO 法人ふくしま地球市民発伝所（福伝）の事務局長。2012年に国際協力 NGO センター(JANIC)の震災タスクフォースメンバーとして福島へ赴任したのを機に移住。2014年、JANICの活動終了と同時に同僚と福伝を立ち上げた。南アジアで40年以上活動する NGO、シャプラニール=市民による海外協力の会理事。2005年から09年まで同 NGO のダッカ事務所長としてバングラデシュに駐在。インドを代表する女性活動家ウルワシ・ブターリア氏（2000年度 ALFP フェロー）の著書 *The Other Side of Silence: Voices from the Partition of India* を翻訳し、『沈黙の向こう側～インド・パキスタン分離独立と引き裂かれた人々の声』として2002年に明石書店から出版。

アムラン・ホセイン（バングラデシュ）

ダッカ大学政治学部 准教授



ベルゲン大学（ノルウェー）で公共政策修士号、シェフィールド大学（英国）で政治学博士号を取得。2002年には米国国務省主催のインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラムに参加し、2011年にはポルトガルで EU 研究員を務めた。また、数々の国際会議やセミナーでバングラデシュの地域に根差したリハビリテーション、民主化プロセス、イスラム過激主義に関する論文を発表するなど、国際経験も豊富。バングラデシュの政治・権力・汚職の問題、国際法および国際政治、社会科学方法論、研究倫理、独立戦争前後のバングラデシュ概論などに関する学術書を執筆し、論文も多数発表。現在の研究領域は、宗教的過激主義、政党制、人権、民主主義の規範など。特に世界で活発化する宗教的過激主義を懸念し、バングラデシュの分析を中心に、民主主義、暴力と平和などの観点から、アジアの将来について考察している。

李泰鎬 イ・テホ (韓国)

参与連帯 (PSPD) 政策委員会 委員長



韓国において、長年にわたり市民活動家として活躍。1995年、韓国で最も影響力のある NGO のひとつである参与連帯 (PSPD) に加わり、2011年から16年には事務局長として、経済的公正、市民的・政治的権利、平和と軍縮など、PSPD の主要な活動を牽引してきた。汚職防止、政治改革、表現の自由、社会福祉改革、反 FTA (自由貿易協定)、反戦、武力衝突の平和的解決などに関するキャンペーンやプロジェクトにも関わる。1991年にソウル大学校で西洋史の学士号を取得。2008年から09年までコロンビア大学東アジア研究所に客員研究員として在籍し、2010年から16年まで「人権と開発に関するアジアフォーラム」(FORUM-ASIA) の執行委員。日本の若者による政治活動や、福島原発事故後の人間の安全保障に絡む市民運動など、日本の平和活動に強い関心がある。

ファン・ゴック・ジエム・ハン (ベトナム)

イレインボー・メディア&エンターテイメント CEO



ホーチミン市にあるフォンナム・カルチュラル・コーポレーションをはじめ、さまざまな企業のマーケティング部門で10年にわたり経験を積むとともに、全国紙、ビジネス誌、スポーツ・文化紙に100本以上の記事を執筆。2014年にメディア企業を立ち上げ、テレビ番組や歴史ドキュメンタリーの共同制作を行いながら、作家や脚本家やエッセイストとしても、若者を含め幅広い層に影響を及ぼしている。公式の歴史観にとらわれることなく、独自の視点から近代史を捉えたドキュメンタリーを制作するなど、ベトナムのメディアとしては斬新な創作活動を行っている。2014年に *Doi Mat Cua Trai Tim* (心の目、Today TV) がベスト・TV ドラマ・アワードを受賞。貧富の格差が残るベトナムで、あるべき発展や成長の形を模索している。

クマール・スンダラム (インド)

核軍縮平和連合 (CNDP) 上席研究員



インド国内の 200 を超える市民団体や個人が加盟する核軍縮平和連合 (CNDP) の上席研究員で、活動家。特に福島原発事故後は、日本を含むさまざまな国の市民社会と連携して核なき世界を目指し、核関連の情報や対話を掲載するウェブサイト「DiaNuke.org」を開設した。国の政策や対応の違いからビジョンを共有しにくい原発や核兵器のような課題にこそ、市民社会のネットワークが必要と主張。アジアの連帯強化に向けた活動を積極的に展開すると同時に、平和と正義の実現の鍵としての民主主義に強い関心を持っている。「IndiaResists.com」や「AsiaProgressive.com」をはじめ、氏が立ち上げた市民運動や人権に関する共同制作型の Web プラットフォームやアプリケーションも注目を集めている。

クリセルダ・ヤベス (フィリピン)

ライター/フリージャーナリスト



ミンダナオにおける軍事や武力紛争に関するテーマを中心に執筆。40年以上内戦が続いたミンダナオに再び平和をもたらそうと奮闘するフィリピン軍兵士たちの姿を描いたノンフィクション作品 *Peace Warriors: On the Trail with Filipino Soldiers* が2012年にフィリピンのナショナル・ブック・アワードを受賞したほか、フィクションでも数々の賞に輝いている。また、ジャーナリストとして30年にわたり国内外の政治や重要事件を伝え、軍事・防衛分野では南シナ海の領有権問題を含むルポを手がけている。現場の状況を知るべく沿岸の村を多数訪問。現在はパラワン州で、海洋安全保障とエコツーリズムに関する本の出版に向けた情報収集を行う。領有権問題などで高まりつつあるアジアの緊張を、対話を通じてどう解決するか、予防外交による域内の軍拡競争の抑止、海洋資源の開発・保護に関する共通ルール作りなどに関心を寄せる。

アヤン・ウトリザ・ヤキン (インドネシア)

国立イスラム大学ジャカルタ校 講師/ナフダトゥル・ウラマー中央指導部モスク対策 副議長



国立イスラム大学ジャカルタ校でイスラム法の学士号を取得後、カイロのアル＝アズハル大学でイスラム法を学ぶ。フランス国立社会科学高等研究院で歴史と哲学を専攻し、修士号と博士号を取得。オックスフォード大学イスラム研究センターやハーバード大学法科大学院イスラム法研究プログラムの客員研究員を経て、現在は国立イスラム大学法学・シャリア学部で教鞭をとるかたわら、同大学イスラム社会研究所の研究員も務める。宗教多元主義に基づく宗教間対話、また、イスラムの教えに深く根付く普遍的価値である人権尊重の重要性を説くとともに、相互理解の基盤となる知的リーダーによる思考プロセスの共有の必要性も訴える。インドネシア最大のイスラム組織「ナフダトゥル・ウラマー (NU)」中央指導部モスク対策副議長。バンテン州の文化財専門チームやジャカルタ首都特別州の歴史専門チームの一員として、ジャワの文化や歴史にも関わる。

※所属・肩書はプログラム参加当時のものです。

ALFP 2016 Schedule

9月5日	オリエンテーション／歓迎レセプション
9月6日	イントロ・セッション カントリーレポート1：アムラン・ホセイン
9月7日	カントリーレポート2：アヤン・ウトリザ・ヤキン、クマール・スندگان カントリーレポート3：イ・テホ、クリセルダ・ヤベス
9月8日	カントリーレポート4：ファン・ゴック・ジエム・ハン、藤岡恵美子
9月9日	鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター長、教授）セミナー「5年後：福島原発事故後の原子力政策」
9月11～12日	リトリート会議 in 逗子
9月13日	添谷芳秀（慶應義塾大学教授）北東アジア・コアセミナー
9月14日	キャシー松井（ゴールドマン・サックス証券副会長）セミナー「ウーマノミクス：多様性が経済にもたらすインパクト」
9月15日	防衛大学校訪問
9月16日	田辺明生（東京大学教授）南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」
9月20日	加藤久典（中央大学教授）東南アジア・コアセミナー「東南アジアの価値：近代と伝統の間で」
9月21日	アンベス・R・オカンポ（アテネオ・デ・マニラ大学准教授／2014年度ALFPフェロー） セミナー「記憶と忘却」
9月23日	フェローによるワークショップ（藤岡恵美子）
9月26～30日	沖縄フィールド・トリップ
10月1日	松山大耕（臨濟宗妙心寺退蔵院副住職）宗教間対話についてのセミナー
10月4日	NHK 訪問
10月6日	朝日新聞社訪問
10月7日	フェローによるワークショップ（ファン・ゴック・ジエム・ハン）
10月8～16日	個人活動期間
10月15日	新渡戸国際塾塾生およびマンスフィールドフェローとのディスカッション
10月17日	小熊英二（慶應義塾大学教授）「不安定性、政治の危機と新たな社会運動：福島原発事故後の新たな社会運動」
10月27日	公開セミナー
10月28日	評価セッション

2016 Program Overview

ディスカッション・ペーパー発表会議

プログラムの始めには、フェローがそれぞれの関心テーマや出身国の状況について発表し、2016年度のALFPのテーマである「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」に基づいて日本の有識者と議論を交わすセッションが神奈川県の下子で開催されました。



コメンテーター：

- 今田克司（日本NPOセンター 常務理事）
- 金敬黙（早稲田大学文学学術院 教授）
- 高原明生（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）
- 水野孝昭（神田外語大学 教授）

コアセミナー

プログラム2~3週目には、北東、東南、南アジアのいずれかの地域に焦点をあてた、3つのコアセミナーが行われ、それぞれの地域が抱える課題を中心に、今後のアジアについて大局的見地から議論を重ねました。

- 9月13日 添谷芳秀（慶應義塾大学教授）

北東アジア・コアセミナー

本セミナーでは、政治と安全保障協力の観点から、北東アジアの現状と課題についてお話を伺いました。



- 9月16日 田辺明生（東京大学教授）

南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」



- 9月20日 加藤久典（中央大学教授）

東南アジア・コアセミナー「東南アジアの価値：近代と伝統の間で」



セミナー

セミナーでは、学界やNPO・NGOなどからお招きした知識人や専門家から以下のテーマでお話いただき、その後、フェローとの間で活発な議論が交わされました。

- 9月9日 鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター長、教授）
「5年後：福島原発事故後の原子力政策」



- 9月14日 キャシー松井（ゴールドマン・サックス証券副会長）
「ウーマノミクス：多様性が経済にもたらすインパクト」



- 9月21日 アンベス・R・オカンボ（アテネオ・デ・マニラ大学准教授／2014年度 ALFP フェロー）
「記憶と忘却」



- 10月1日 松山大耕（臨濟宗妙心寺退蔵院副住職）
宗教間対話について



- 10月17日 小熊英二（慶應義塾大学教授）
「不安定性、政治の危機と新たな社会運動：福島原発事故後の新たな社会運動」



その他の訪問およびセッション

- 9月15日 防衛大学校訪問
校内を見学させていただいた後、学校長を含む関係者の方々と意見交換を行いました。



- 10月4日 NHK 訪問

シニア・プロデューサーの方にお話を伺った後、社内とスタジオの見学をさせていただきました。



- 10月6日 朝日新聞社訪問

アジア関連の報道を担当されている記者の方々にお話を伺い、社内を見学させていただきました。



沖縄フィールドトリップ（9月26～30日）

フェローの共通の関心事などに基づいて企画したフィールド・トリップに出かけました。

名桜大学でのセミナー

9月27日には、名桜大学を訪問し、沖縄の有識者や名桜大学生と議論を交わす機会をいただきました。セミナーでは、下記のテーマで4名の方よりお話を伺いました。

- 幸喜良秀（国立劇場おきなわ前芸術監督）沖縄の文化と価値観について
- 高嶺司（名桜大学教授）「辺野古問題：米軍基地の県内移設をめぐる政治」
- 山里勝己（名桜大学学長）「大学の誕生：琉球大学設立の背景と問題」
- 与那覇恵子（名桜大学教授）「アメリカ占領初期の沖縄（1945～53年）：初等義務教育における英語学習はなぜ廃止されたのか」



沖縄の自然と文化の保全について

- 9月27日 国立劇場おきなわ見学および沖縄伝統芸能の継承に関するセミナー
嘉数道彦（国立劇場おきなわ芸術監督）



- 9月28日 沖縄美ら海水族館見学およびサンゴ礁の保全と環境教育における水族館の役割に関するセミナー
野中正法（沖縄美ら海水族館魚類チームリーダー）



竹富島訪問

- 9月29日 上勢頭立人氏（喜宝院菟集館）の案内による竹富島集落散策と、上勢頭篤氏（竹富公民館長）による社会変化と観光ブーム下での伝統文化の継承に関するセミナー



公開セミナー（10月27日）

約2カ月間にわたる日本での共同作業の集大成として、10月27日に国際文化会館にて公開セミナーを開催しました。セミナーではフェローたちが対話の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表しました。第1部・2部ともに、水野孝昭氏（神田外語大学教授）に司会をいただき、会場からもたくさんの貴重なコメントやご質問をいただきました。



各フェローの発表演題は下記の通りです：

<第1部>

- アムラン・ホセイン (バングラデシュ)
「ALFP からの学び：アジアにおける世俗的宗教の慣習と共通ビジョン」
- ファン・ゴック・ジエム・ハン (ベトナム)
「国家ブランディング：誤った戦略とその影響」
- 藤岡恵美子 (日本)
「多様な生き方を認め合う社会を目指して―原発事故後の福島からの考察」

<第2部>

- クリセルダ・ヤベス (フィリピン)
「島嶼と領土：私たちはどのようにして主権を形成していくのか」
- イ・テホ (韓国)
「福島から学んだこと：国家の安全保障から国民の安全まで」
- クマール・スンダラム (インド)
「インドと日本における市民運動：民主主義の発展のためのコモンズ」
- アヤン・ウトリザ・ヤキン (インドネシア)
「アイデンティティーの模索とハラール業界の競合：現代日本におけるハラール食とハラール認証制度」